

瀬戸SOLAN小学校第1学年・学年通信



第2クォータースタート！！

金曜日から第2クォーターが始まりました。

約2週間のクォーター間休みの間に、ゆっくりと体を休めることはできたでしょうか。

これから8月5日までの約1か月間、初夏の陽気の中を子どもたちと共に力いっぱい学んで駆け抜けたと思っています。

初夏と言っても、今年の6月は異例尽くめの天気が続きました。

異例の速さの梅雨明け。

毎日のように続く酷暑。

各地で発令される熱中症警戒アラート。

食中毒や熱中症による被害も既に報道されています。

「愛知は暑い」と聞いていたので相應の覚悟を持って今夏を迎えたわけですが、道産子の私にとってはまさに衝撃的な夏の訪れとなりました。（毎朝の徒歩通勤がかなりキツくなってきた今日この頃です）

学校内はもちろん冷房が完備されていますが、校外での学習や休み時間の過ごし方には特に気を配りながら過ごしていきたいと思っています。

ご家庭でも、日々の赤白帽子や水筒の準備について引き続き気にかけて頂けると幸いです。

また、これから約1か月間の第2クォーター前半を始めるに当たり、学習環境についてもいくつか新しい風を吹き込むことにしました。

年度当初にお伝えしてある通り、各クラスの学級担任は外国人の先生が担当し、日本人の先生は学年担任団として各クラスをフレキシブルに担当できる仕組みになっています。

第1クォーターは、子どもたちが入学して間もない時期であることを鑑みてできるだけ流動を少なくする形で進めてきましたが、第2クォーター以降は少しずつ色々な先生との関わりの機会を増やしていきます。

まずは、それぞれの授業をメインで担当される先生を改めて紹介します。

国語：長谷川先生	算数：中山先生	道徳：渡辺先生	音楽：谷口先生
言語・図書：丹羽先生	体育：オリバー先生・マイク先生		
図工：ルー先生	英語・生活E・算数E：外国人担任の先生		
数：中山先生	書くスキル・考える技：長谷川先生		
情報：丹羽先生・石垣先生	漢字・計算：渡辺先生		
生活・プロジェクト・探究：すべての先生			
※必要に応じて各教科の授業に補助の先生（T2）が入ります			

また、各クラスの担当の先生は以下の通りです。（日本人担任は、「主にそのクラスを担当する」という意味ですので、今後も時機を見ながら柔軟に動いていく予定です）

1組	担任：マイク先生	日本人担任：中山先生・丹羽先生
2組	担任：オリバー先生	日本人担任：長谷川先生・マリー先生
3組	担任：ルー先生	日本人担任：渡辺先生・石垣先生

もちろん、第1クォーターで積み重ねてきた関係性もあるかと思しますので、学校へのご相談やご質問等は、ご連絡をしやすい方にしていただいで構いません。（メールでご連絡の際は、1年生学年団のアドレス 2022grade1@seto-solan.ed.jp まで頂けましたら、然るべき担当者が対応いたします）

また、第2クォーターも「学年通信コスモスハーモニー」にて、学校生活の様子や教育・子育てに関する情報を発信していきます。

特に、第1クォーターの終盤にかけて行った「映像紹介」の通信は多くの方に大変好評でしたので、今後も出来る限り取り入れていきたいと思ひます。

また、読者ページへの投稿もたくさんお寄せいただき、いつもありがとうございます。

共にこの SOLAN での学びを創っていくパートナーとして、色々な視点でのご感想やご意見を教えてもらえれば幸いです⇒ [1学年通信「コスモスハーモニ](#)

第1クォーターの終わりにも、多数のお便りをいただきました。
全ては紹介できませんが、一つだけ紹介させていただきます。

学習発表会と懇談会に参加させていただき、胸がいっぱいで帰宅しました。

先生のテンポの良い授業、こども全員のイキイキとした顔、クラスの一体感の素晴らしさに驚きました。

たった1コマに、たくさんの科目が凝縮されており何コマも見学した気分になりました。

こどもが引き込まれる授業、素晴らしかったです。

朝が早く毎日アフターのため帰りが遅いので、色々と心配しておりましたが、眠い目を擦りながらも「学校が楽しい」と準備する息子の気持ちが授業参観でよく分かりました。

何をしても楽しんで行うことは、重要だと思っているのでありがたい限りです。

第1クォーターが無事終わり、先生方もお疲れさまでした。ゆっくり休んでください。

第2クォーターもこどもも先生方も楽しんで学校生活が行えるよう応援しております。

ペンネーム「みっけ」さんより

みっけさん、素敵なお便りをありがとうございます。

山あり谷あり、色んな壁を乗り越えてきた第1クォーターの一つの区切りが、あの学習発表会と懇談会の場であったと思います。

もちろん、子どもたちはこれからも色んな壁を乗り越えるべく歩みを続けていくわけですが、その道中をお家の方々と共に応援できる関係をまた一歩ずつ創っていきたくと切に願っているところです。

私は、教師とはマラソンで言う「伴走者」のような存在だと思っています。

子どもたちが走る人生の隣を、一定期間だけ共に走る伴走者。

そして、そのまた隣には、より長い期間を伴走している保護者の方の姿があります。

他にもきっと、多くの方が子どもたちの成長を様々な形で応援していることでしょう。

本来ならば、伴走者たる周りの大人たちは主役である子どものために互いに手を取り合うことが望ましいのですが、全国の多くの学校ではそれが中々実現されていません。むしろ、私が教師として勤め出した約20年前に比べて、状況はより難しくなっているといえます。それどころか、不必要なまでに相手の存在を恐れ、反目し合う関係すら見られる状況が広く存在するようになってしまいました。

現代は、変化の激しい時代ですし制限の多い時代です。先の見えない不安から、たくさんの「恐れ」が生まれやすい時代ともいえるでしょう。

でも「恐れ」という名の溝がうまれやすい時代時代だからこそ、互いの力を活かし合うという、ある種の覚悟を持つことが大切なのだと思います。

弱みをあげつらうのではなく、強みを生かし合い弱みは補い合っていくような伴走者同士の関係が実現できれば、それは子どもたちが育っていく学び舎にとってこれ以上なく幸せなことです。



第1クォーターの終業式。

副校長の山田先生からの挨拶の中に、次の言葉がありました。

SOLAN 小学校は、明日で2歳になります。

その日は、開校記念日からちょうど2年がたった記念の日でした。

産声を上げて間もないこの学校には、まだまだ多くの人の力が必要です。

それは、よちよち歩きをしたばかりの子どもに多くのサポートが必要な事ともよく似ています。

先進性や可能性の所では強く光り輝く面がある一方で、システム面や運営面は必死の思いで「作りながら走っている」というのが実情です。

どんな組織でも団体でも、立ち上げの時に一番の力が必要なことは間違いありません。

校舎やグラウンドや教室が出来て、教師と子どもが揃えば学校が完成するのではなく、そこに関わる全ての人と共に少しずつ風土や文化を醸成していくということこそが、「学校を創る」ということなのだと思います。

歩みを始めて間もないこの学校には、まだまだ沢山の課題があります。

我々担任団もそれらを一つ一つ改善につなげられるように力を尽くしてまいりますので、お家の方々にも共にこの学び舎を作り上げるパートナーとして引き続き力や知恵を貸していただければ大変有難いです。

そして、その共に学校を創り上げた歴史を、いつの日か全国の皆さんに胸を張って語りたと思います。「この学校は、色んな壁を乗り越えながらお家の方々と一緒に創り上げた、世界に一つだけの素晴らしい学校です。」と。

第2クォーターもどうぞよろしくお願いします。(渡辺道治)